浜島小学校在り方検討会だより No.1

令和8年10月 浜島小学校在り方検討会

1．在り方検討の開始基準

志摩市では、市内の児童数が年々減少する中、国や県の指針も参考にして、令和８年度に市内各小学校の在り方について検討を開始する基準を「複式学級が複数になったとき」と定めました。

浜島小学校がこの基準に該当しているため、今年度から同校の今後の在り方について検討を開始しました。

（※複式学級…2 つ以上の学年を合わせて１つの学級に編制すること）



2．保護者との意見交換会を開催

６月30日に、浜島町在住の小学校以下の子どもの保護者を対象に、意見交換会を開催しました。6名の保護者にご参加いただき、主に以下のような質問や意見が出されました。（⇒　）は志摩市教育委員会からのコメントです。

	出された主な質問・意見
児童数減が続いた場合	① 令和８年度の入学者は０人だった。このまま入学者ゼロが続くのが心配。（⇒令和９年度以降も厳しい見込み） ② ６年生だけになってしまった場合、存続してくれるのか。（⇒統合ありきではなく、在り方検討会の意向を尊重） ③ 鵜方保育所や幼稚園に通っている子どもは、鵜方小学校に入学してしまうのでは。
統合した場合	① 通学のバスは運行してくれるのか。（⇒通学の手段は市が確保していく） ② 通学時間はおおよそどれくらいかかるのか。（⇒　一番遠くて 45 分程度と思われる） ③ 統合のメリットは、子どもの数が多い分、自分に合った友人ができる。 ④ 統合後、人数が多く、子どもが圧倒されないか不安。
その他	① 低学年になればなるほど、学区外就学の人数が多くなっているのでは。 ② 今の浜小の規模感や、地域や先生方との密接な関わりに非常に満足している。浜島中も同様である。 ③ 少人数制の良さをもっと未就学児の保護者に知ってもらいたい。

3．浜島小学校在り方検討会での協議

浜島こども園・浜島小学校・浜島中学校の保護者各代表と、園長・校長、自治会や地域団体代表、教育委員会等の関係者計１１名で「浜島小学校在り方検討会（以下、検討会）」を立ち上げ、これまで 7/29 と 9/28 の2回、主に次のような内容を協議してきました。

・浜島小学校の現状について（少人数による教育活動の現状など）

・浜島小学校を「存続した場合」と「統合した場合」のメリット・デメリットについて

・アンケートを含む意見集約の仕方について

※裏面へ

【参考】

浜島小学校の強みと課題

浜島小学校をはじめとする小規模校には、一般的に以下のような強み（メリット）と課題（デメリット）があります。大規模校と小規模校の特性は、表裏一体の関係と言えます。

また、現在、浜島小学校は国の基準によると、２つの複式学級（３・４年と５・６年）になりますが、県からの加配教員が配置されていることで、５・６年生は学年を分けて指導することができています。３・４年生においても、国語、算数、理科、社会等は学年別で指導することができています。体育などは、2～３つの学年を合わせて行うことで、より多い人数での学びができています。

強み（メリット）

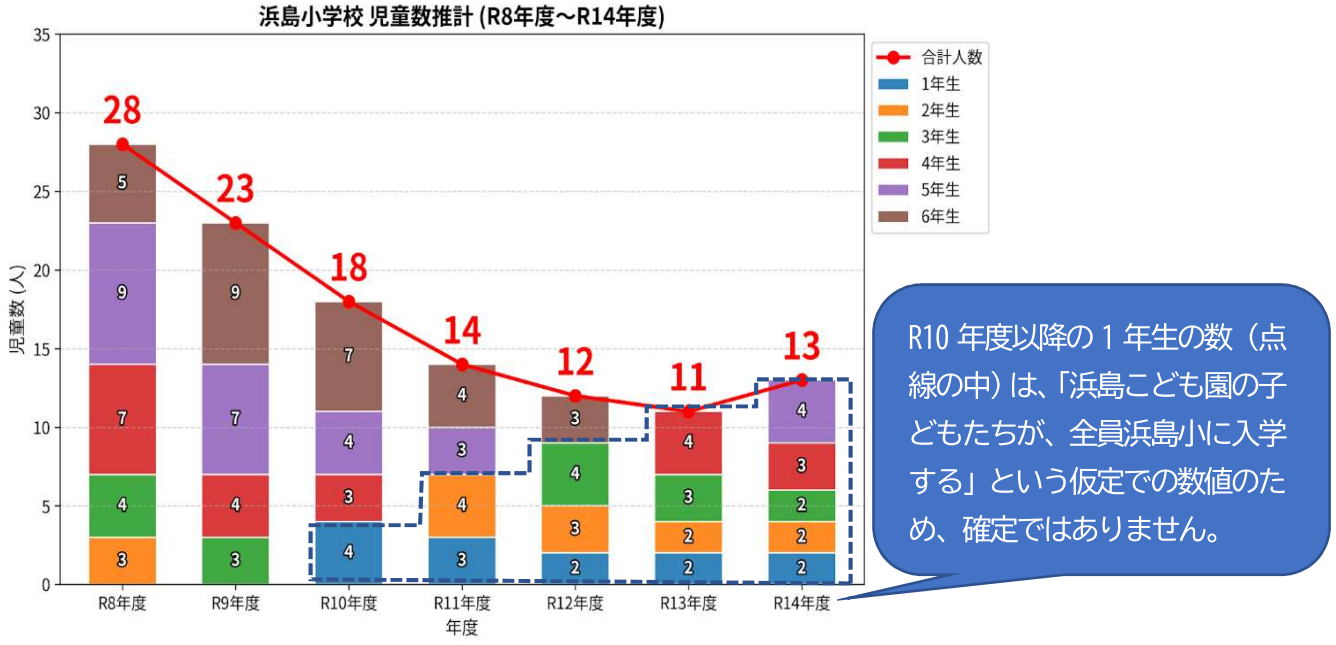
・子ども一人ひとりに目が届きやすく、個に応じたきめ細かな指導がしやすい。
・子ども一人ひとり学習機会や出番が確保され、活動の場を多く設定しやすい。
・学年を超えた活動ができ、学校が一体となった取り組みがしやすい。
・地域の祭りや行事への参加など、地域と連携が図りやすく、地域に根差した教育がしやすい。

課題（デメリット）

・人数的な制限があり、団体でのスポーツや、合唱などの活動がやりづらい。
・人間関係が固定化しやすい。
・日常において、多様な考えに触れる機会が持ちにくい。
・学校全体に必要な役割を少ない人数で分担するため、一人ひとりの負担が大きくなる。

今後の浜島小学校の児童数推計グラフ

下のグラフは、９月１日現在の浜島小学校と浜島こども園の園児数からの推計です。



４．アンケートのお願い

これらの経緯を踏まえ、今後の浜島小学校の在り方検討の資料とするため、保護者アンケートを実施します。保護者の皆さまの意向は大事な資料となりますので、趣旨をご理解いただきご協力をお願いいたします。

事務担当　志摩市教育委員会 学校教育課　担当 村田･磯和
電話：0599（44）0336 メール：ky-gakushido@city.shima.lg.jp